

再江戶砂子

和書門			
二	三	七	七
一	六	三	類
八	九	六	三
冊	架	函	號

28

庫文閣内	
五	三
四	七
冊	架
五	八
架	冊
三	七
號	架

地理

内閣文庫	
番號	和 23773
冊數	8 (1)
函號	174 28



武藏野

即奉

浅草文库

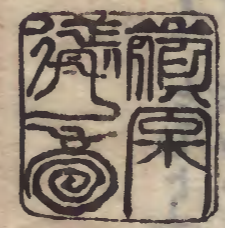
武藏野乃宏き松人あふ筑波の
影を孝子も志高く土峰のそとに
まらぬ中より金もたりしき満川乃
つきあぬ流しは海の涌浪静し
校をまゝし江都の名を萬葉
江戸雀の鳴り張るを江戸舞子共
赤を結ぶに全六軸方二十三隅子

再交正寸品赤巻

二

水澄をりしあふたふる鄙人の
故より温ね新き氏知る里多先
温故名跡のそをよいまに後乃
江戸破りし中より云

肯亨子保士子梅天上流乃日
江都神田誹林雀下菴沾源叙



新編江戸砂子温故詩凡例

○凡編纂乃序次新古に拘らぬ御城を以始り
江都の中央ありて方角茲より計る故より首卷ハ
先武陽北大意試論一次に御城と始りて御外
曲輪乃内子終り 第二江城の東浅州橋場より始り
下谷千住より終り 第三江城の良湯島谷中に始り
駒込小石川より終り 第四江城の乾牛込四谷より始り
赤坂渋谷より終り 第五江城の南芝西久保より始り
品川目黒より終り 第六河東深川本所より始り
亀戸隅田川真間より終り
○凡條毎に先大意試記一神社の鎮坐壘跡佛閣ハ

再交江戸砂子亦志

草創崩山名所古跡ハ其來歴を記

○凡方角ハ其所ニ以圖試以大意試記

○凡諸大名御簾本御屋敷ハ武鑑ヲ讓リ町小路の各目ハ町繼に讓て省之

○凡古麻子よ云工商の部ハ江府益繁花行て其所一凌なり因て古書に讓て省之

○凡古麻子よ云茶器の名物とるくの筆財ハ際限あり因て省之

○凡真間中山ハ総州葛飾郡よりいへも武陽に隣とて追加に記して共ニ江府名跡志と云

先人好禱と云は其法其他諸技
無所不為時曰を
新治平百幸の物より富京後申新
至法也至高の創新撰抄之観
也其歩之妙也増之之柳嶺等之
撰比屋撰地法其等々其等々其
撰其等自左ふ之其入ふ其其系

景与物互袒随去随来不可不
 有所知此景与物不相去也
 是治平之财也非治平之财也
 在户地法其即也然何明也惟理
 而系随而不若稍近于治平之
 或五若止若他地法而再按公于
 在更稿步而步率焉以八十五也

也其不可不惟率因州之率也
 如也其不可不先人之善法也
 之解者而不可不先人之善法也
 在于其不可不先人之善法也
 亦其不可不先人之善法也
 志既与且稿步也其不可不先

再校江戸砂子名跡誌

凡例

- 江都方角とけめ數條大槩前板のわく神誤字を正文段ハ十カ一を訂正を
- 神社佛閣も亦前板より唯享保十七子年以來の牒地を載る其餘の寺院ハ歴代現位の名録を省の
- 名所古跡又同一大名御旗本市屋敷の内外より物ハ市屋敷替り至又ハ市名かハつたり當時の御名不改正を
- 所ハ圖とハ大意を記せざるも前板を用ふ

大名御旗本當時の市名不改正記す乃

- 総て文段を改さる崔下菴丹志を傷んといはる也名所古跡或神社或佛閣等ハ崔下菴門人等の俳諧藪句より今あまを省るの志と破るハ所とあり
- 六のハ増補せらる其行の上ハ補乃一字と記ありしハ續江戸砂子不載る所のまハ於てあり記され
- 寺院山號或閣基或塔等乃増補せ

るもふとてぬくくしを補の一字をさるるに
前板よりの前の引用の書目ハを此まきり記
増補とるもろ乃引用の書ハその前よ乃セ
以標々考未記

○再校の寶曆まそのるをなかり訂正を
しゆのハ明和より乃ち一してさるる文
字のさるひあをいへしし一して終る
終るもすよいへはあす

○武藏國大意

人皇十二代景行天皇四十年日本武尊東夷征伐帰陳のとき秋父の峰よ
武具と名をいふ山神と祭たまふ武具と名をいふ武蔵國と号と
倭本紀武藏國秩父嵩者其勢如勇者怒立日本武尊
美此山奉為東征祈禱以兵具納埋岩藏故曰武藏國
以武具指置之儀訓牟佐志也 舊事紀胸刺國是劍
之謂也武具者劍第一故也後名不雅故改武藏國云
大上々國 二十二郡 田畑百十六万余石 四方五日半

○豊嶋郡 江戸近在 ○荏原郡 芝金杉より南
品川西目黒辺

○葛飾郡 本所葛西より北へ 川崎金川
杉戸幸手栗橋 加と名の辺

○足立郡 千住草加旭谷 橘樹の並
蕨浦和大官辺 都筑非ナリ

○埼玉郡 柏壁越谷辺 崎ハ非ナリ ○多磨郡 くもと入るの間の郡

○大里郡 熊谷の辺 ○入間郡 川越辺

○男衾郡 榛沢と比企の間 ○新座郡 倉ハ非ナリ 白子勝折の辺

○榛澤郡 深谷の辺 ○高麗郡 府中辺

○兒玉郡 本庄 八幡山辺 上州境 ○横見郡 吉見辺 大里とひきの界

○秩父郡 吉田小鹿野辺 ○久良岐郡 金沢の辺

○比企郡 ちびと入用との界の郡 ○賀美郡 兒玉の東利根川附

○播羅郡 忍の辺 ○那賀郡 兒玉と比企の界

再校 江戸砂子温故名蹟誌卷一

古 沾涼纂緝 恒足軒再校 冬涉訂正

一 御廓内 大槩

二 御外廓 河北

南ハ限日本橋江戸橋川通
北ハ限駿河臺神田川通
東ハ限淺艸川通小網町
西ハ限飯田町小川町

三 同 河南

南ハ限芝口橋
北ハ限日本橋茅場町
東ハ限靈岸嶋鉄炮洲築地
西ハ限御内廓堀

四 同 西 桜田永田馬場麴町番町

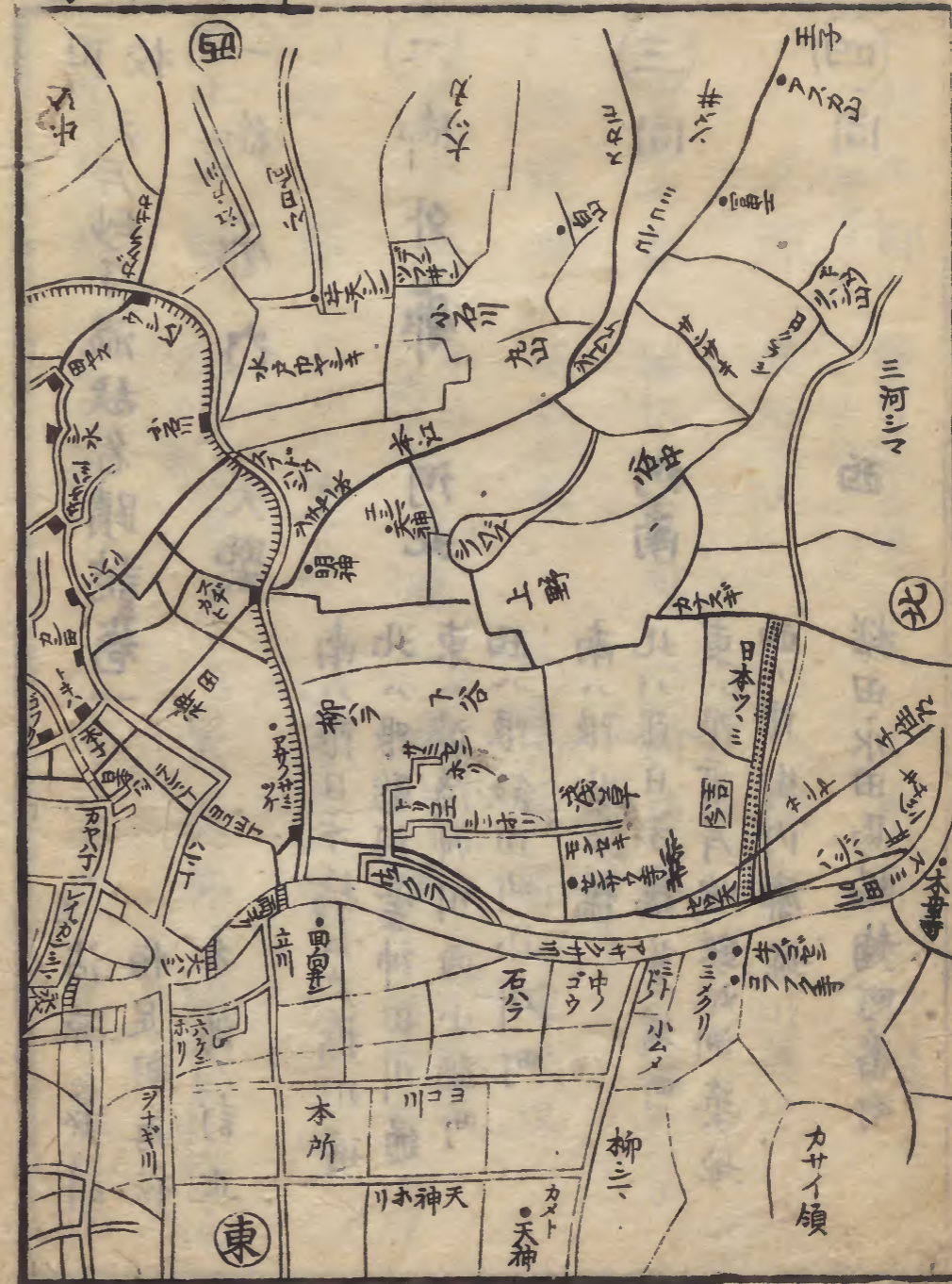
再交工府名亦志

角略圖



冬涉所
沽凍

江戸方



舟掛所御城

豊嶋郡 峽田領江戶

風土記云

或菴土

公穀五百九十二東三字田
假粟三百二十七九三毛田

貢牛濱荻阿無見與呂伊等充左右馬寮与武庫司

○御城

人皇百三代後花園院御宇長祿元丁丑年築也

源三位頼政十六代の後胤太田備中守入道道真荏原郡品川の
館よりりしころ子息左衛門佐持資入道道灌豊島郡江戸
の地よて千代田 宝田 祝より所をとりて城地と取康正二

丙子年よあしけり一長祿元丁丑年四月八日巧匠の功成就と
時よ京都五山の万里和尚古詩を引て此地を称せり
窓會西嶺千秋雪 門繫東吳万里舟

此地かたしに繁華なりといへる其言符合す奇といへる
道よ道灌はきて居城より志るより亨徳三年かほりての
御所成氏憲忠を誅せりきてより大なりけり道灌ハ

上杉修理大夫定正の臣として扇ヶ谷に假せりあるに定正と
上杉民部大輔顕定ハ不和してたうひ數度におよぶ道灌
より人の讒によりて文明十八年定正のためよ七ひそのち定正
朝良二代の在城より朝良率して上杉修理と支朝真居城と
小田原の北條左京右支氏綱大永四年よ上杉朝真を亡して後
氏綱氏康氏政氏直四代北条家よ属し北條治邦少輔
遠山左衛門尉を城代とて天正十八年小田原没之後一
江城 御當家よ属しよてまゆりそのあるを西御
丸のりりしよてすあき御かまなりといへる
その後りしよ御築しよ一萬代不易の基なり
御城地 御見たりあしけりけり時西御丸のかよりり
御本丸のうしろ白鶴きよりて舞よあまよ千秋万歳の吉
瑞なりとて
御在城よはよめさせたまふとて

- 御本丸
- 西御丸
- 二御丸
- 三御丸
- 五御丸
- 北御丸

數千丈の石牆いづこの御櫓やぐら真まこと朝あさ日ひ佳よ氣き氤いん氳んとて慶けい雲うん映えいとて御池いけの汀つぎは万歳ばんざいをうふふ龜かめゆくとり

○富士見御矢倉 三重の御やぐらあり

○大下馬 御大手

○西御丸大下馬 榎田の内

○内櫻田御門 御大手の南 前坂 桔梗御門とらり

○坂下御門 内櫻田御門の南

○御廐 西御丸下

東都紀行曰

あゝあやかりひめ草もねりきり日の光とあけらひきり
御内廓紅葉山吹上御庭よまてあま奇石清泉の敷
勝計すへうけいといへも庭人のあやなりねとあること

○吹上御庭 いろいろ石垣といひハはあくとま

○松原小路 竹橋御門の内ありむりハもまてねるなり

其まて代々結城黄門の侍館とまゝいれとまゝの清い
よといひいれとてそのつき清水御門の内ハ後河原相の侍

○國師屋敷 坊上寺中興善光觀智玉師の中き次と

○梅林坂 平河口の内あり

○梅林御門 右同取

文明年中太田道灌川越三芳野の天満宮といひなり

○道三河岸 新の口御入城の河岸近きまで御醫師
今大路家のやきりやうと

○道三橋 右のおよがる 川の付るをさせらるの
村が遠より来て御とがめ何やう御堰とまらるやう
とやうとれりゆきは橋とけりせむしといふ

○銭瓶橋 ときは橋とごう橋のるむい橋はけりめ
村のへ瓶とわり出りゆきのと云一説ハ銭瓶橋なりと云
むいけおよて永楽銭の引替ありといふ

○常盤橋 御大手の通りしを所へ出りおの
ときはの松の縁ととり松平の御おききよて号らる
むいハ大橋といひと西園橋作らる一河常盤橋と改
らる古江戸絵圖ハ大橋といり前板子一石橋と大橋
といひ一と記せハ誤ト狼狂歌もは所よそのりいハ乃

橋浩ハ御菓子司大久保主水亭より寛永の以御船よて

御成の付御尋ありに水真なりとや上り半井ト養
御前より一首はれと 上意ありとれと ト狼

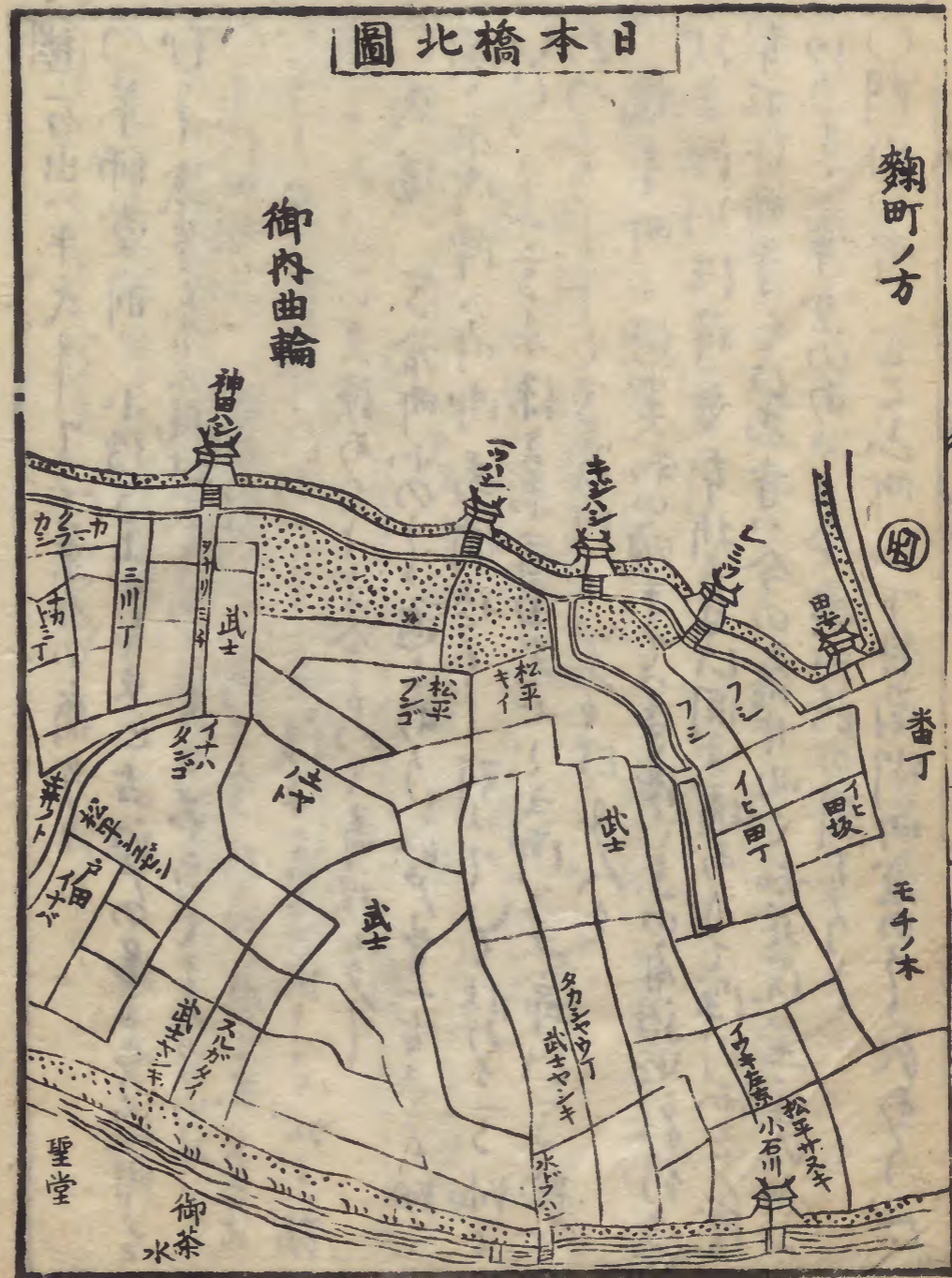
○神田橋 小川町へ出上野 御成道筋
けり神田大明神の舊地なりけり辺むいハ芝崎村と云里くと

○一ツ橋 津田けりの西に 御城取の付大木一本よて
けりといけりゆのなかりと

○雉子橋 一ツけりの西 むいハ朝鮮人某聘のとき
冬夜の雉子雞とけ所は皆とゆいてそりゆの各こと
けりまて日本橋よりの潮さ入舟往来あり

○清水御門 きり橋の水 け御門夏涼く冬に
けりて御門の坂美景むいハ朝鮮人け津門よ入る時景
地なりと甚かめりといふ

○扇稻荷社 清水御門の西まにあり



つつき地本乳寺の旧地なり

補

○八の彦を彦彦

右の跡の上地は大名八人の彦彦きりりし由ハのらるる
きと云今ハよこ山町南側より尺町まで武士中一きと成

○茶研堀 やのらの舟入堀

○難波橋 やげんわりの大川とて

○夫婦柳 じよはりの法より未歴志しと

○不動尊 やげん堀のわりとあり 菴主 明王院

○浅草御門 御橋と浅草橋との間 神田川より

御門外と浅草との間は通舟千任往還なり

△前板曰 治承元年 予幼年のころ或老人の言はる所の外ハ氏家なく
うの人若年の時観音詣の折より舟の内所より火繩とてこの
乃すくたると香してゆりり今ハ浅草寺のうらまをす
地より町屋建つまなり

○柳橋

浅草河の下大川へ出る川口

○船宿

御門と柳橋との間朋町の河岸より

山谷舟の宿所よりあり舟も 当所箱崎今戸堀は三ヶ所
別して多し一は船とちよき舟と云ハ長吉船の畧語と柳
送船の長吉といふ舟のころとやげんのおりてまうく
くや一は舟のつくりとかんぐ舟の玉を動かすもあは橋さくや
利を兼ねるものにはりてちよき舟と云ハ舟のまきとて
と二挺にして二挺とてその後二挺と御停止あり今ハ一挺なり
近來橋舟とかけり舟のころは櫓の舟よりありあり

○兩國橋

浅草川より 長九十九間

萬治年中にけりてからけり大橋といひ後あは橋といひ
けり古名大橋といひ一由一河の橋より大橋の名なり
け川え東武を越下総の堺といふよりありてあ園橋といふ
より今ハ新橋西の道のありす武を越小若師那の
うららけり既利根川と限る六巻本下の記よりハ一紀

埋つてそのくまのこ乃られり他のくまに柳あり俗にかま記家の柳といへり木の下に小祠ありかまをまらるしといひ又は池とわいのめその他といふをここれらの通きわりの葦原川は新設しての里流りたる一といふをわいの川は伝別あり さまる抄り

伝別ありわいの川のとくまをこまをせむすの神といふをこのまをわいの神といふをわいの川といふをこまを縮高と

補

○新封疆 紺谷町堀り通明和四年築れり

○神田の廣小路 享保けじめの頃ひく

○元哲言頼寺前 浅草新築おはしわりのり曆年かよは儀ま

○雁淵 柳原土も下たのまをよは儀まのむはけ所り

○久太郎所 柳原土も下たの代比

○おき所 柳原土も下たの代比は比えん武士中きこ

○小松町 上中下の代比元禄年中中堂御建まのころり

○龜ヶ井 連雀町のま金田丹波もあききの内より上口五尺余りて底にまろやと大まひりていへり御茶のまよも

○三河町 御入園の村三河の町人よは地と下八町をな作ると

○御宿縮高 三河町にあり法入ふの村といれり

○佐竹後前 永富町ハ佐竹右末もまな中きし天和の頃

○丹後後前 堀丹後もまな中きし天和の頃

補

○三河町 御入園の村三河の町人よは地と下八町をな作ると

○御宿縮高 三河町にあり法入ふの村といれり

○佐竹後前 永富町ハ佐竹右末もまな中きし天和の頃

○丹後後前 堀丹後もまな中きし天和の頃

補 補

○神田ッ割 又小川の清水を云小川町内菟大和寺後や
 きの内にありは他志のまの他へぬけりといひ伝説
 ○護持院旧地 津田けりひのけり外芝生といは所を
 新こゆが原といひり
 ○担板橋 飯田川と云飯田町の入堀なり
 ○真菰ッ割 右の堀おの堀とありは番のうらろと云
 右日お 小みぞの石橋と云本歴とれす
 ○蛭橋 田安下所堀と云の坂
 ○九段長屋 飯田何某と云わ行ありけるより飯田町といはそ
 ○飯田坂 飯田坂のりびくはおよもらの大木ありといは
 ○松精坂 飯田坂のりびくはおよもらの大木ありといは
 ○二合半坂 ところの本坂の並ひおの方又日光山半と云らかとも云
 ○富士見通り 飯田町より四番町へのが即人參畠のおく通
 西子不二山正面よりゆるゆるのま
 ○人參畠 田安御門の外よりあり近年朝鮮種人參を植

補 補

させたやうよりていふ
 ○柳の井 もちのゑ酒井家の中きにありといふ
 ○錦の森 日所やまきの森といふ
 ○世継稻荷社 飯田町の坂中にあり 神主吉川武初
 社説曰文安年中の草創と云松平近鎮の中きの内よりを後
 十年回縁の後町をよりていふ 中津をよりて建たと
 ○三崎稻荷社 水乃橋の西土にあり 神主イロトヨ
 ○小石川御門 け所門外より小石川と云御外廓堀なり
 ○水道橋 水乃橋より流りかきは橋より並ひて上水の大橋ありといは
 つくは橋のりびくはおよもらの大木ありといは
 ろといは其川ののり入堀とありて今にあり万治年中松平
 陸奥守殿 釣命と云けり所茶の水と堀より浅き川と
 云らるると津田川といふ又は橋と吉祥寺橋といひ
 ○小栗坂 水乃橋より小坂と云道小栗家の中よりいふ

三 日本橋南 茅場町靈巖場 鐵炮洲 築地

○日本橋封壇藏 日本橋と江戸橋のる川と根通六七尺を石垣にて根附芝蔭戸前と町年寄の持

○四日市 江戸に南詰度少ぬのあけ取ひいひ日市場と云村に四の日本市あり

○式部小路 日本に南二丁目の新屋と云

○鹿兒嶋稻荷 久志本氏屋敷の内より

○中橋 日本に南四丁あり

○紅葉川 江戸東の堀と云は所を堀留と云

○五輪町 南橋町と目撰町と昔は石工あり

○鷹橋 右の川筋を本町四丁目と五丁目の間

○越中橋 松平越中が中と云のあのはり

○中の橋 川筋を所の廻り堀よから

○海賊橋 又石橋と云 青物町より坂を西と云

○儀乃井 桶町にあり其石を詳 古森子云日本橋より

○親世稻荷 本橋南二丁目と町親世を中と云の法を

○親世稻道 右の親世を中と云の法を

補

○親世稻道 右の親世を中と云の法を

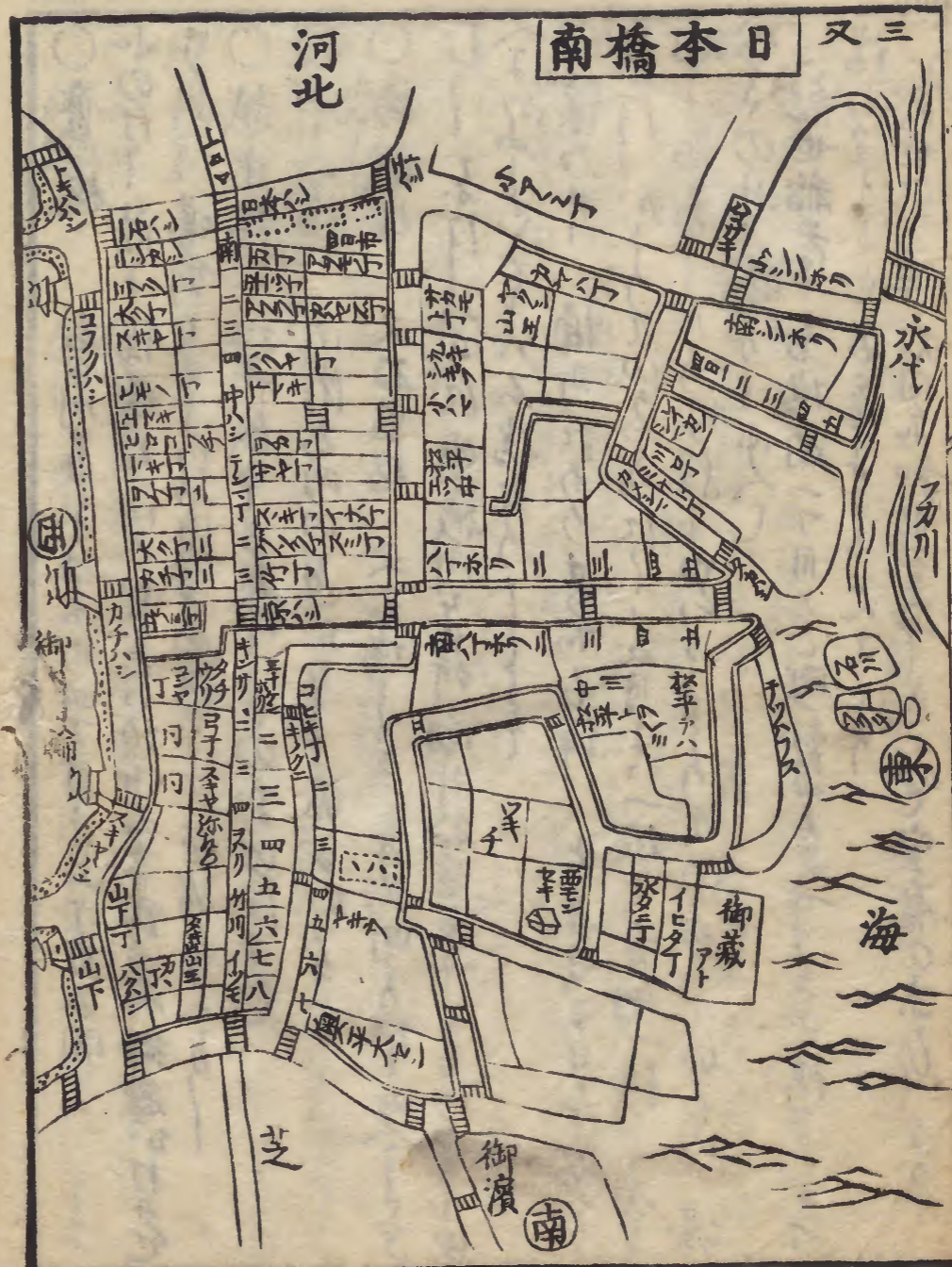
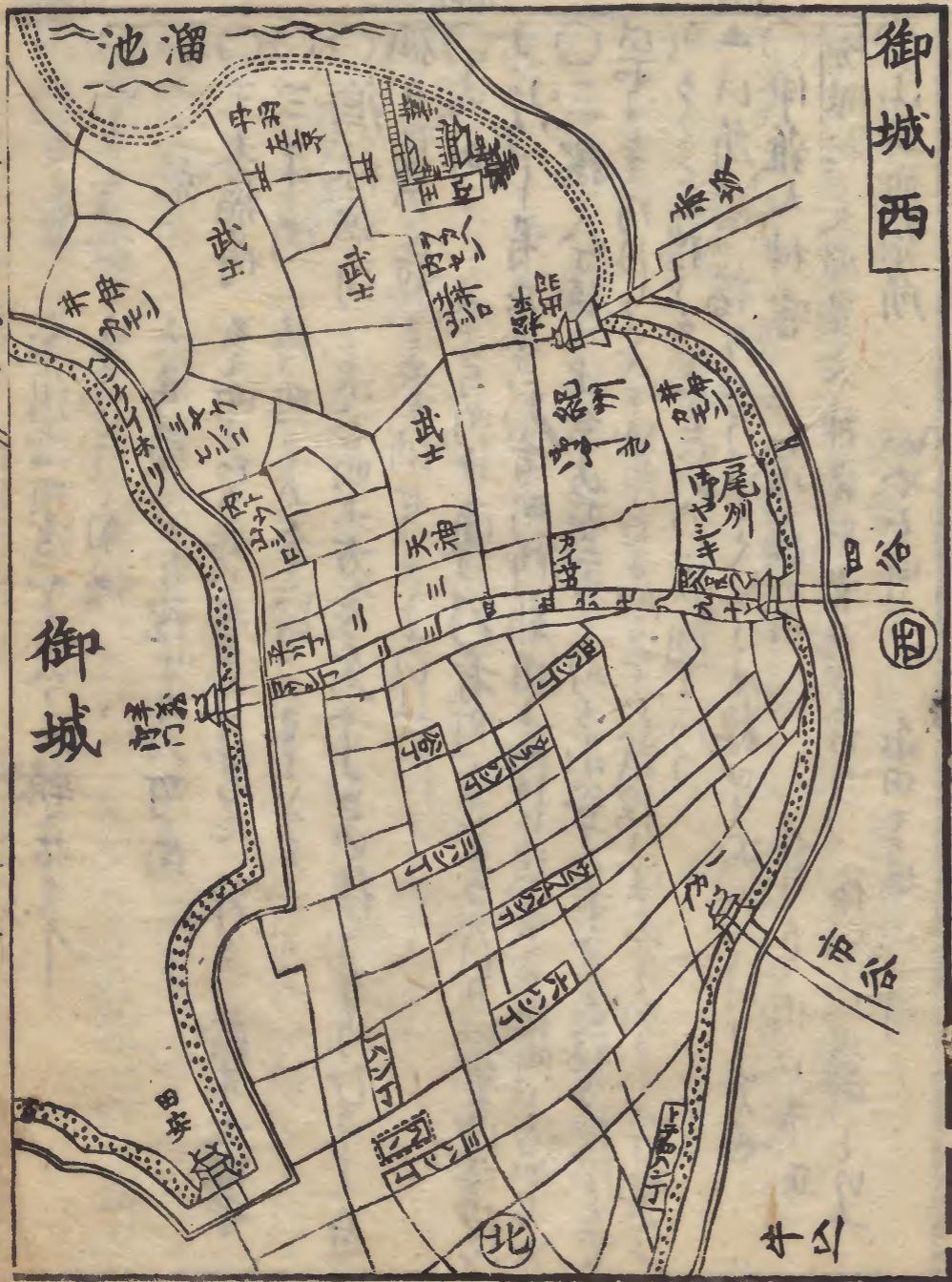
○親世稻道 右の親世を中と云の法を

○親世稻道 右の親世を中と云の法を

○親世稻道 右の親世を中と云の法を

再校正府名跡志

卷一



再校正府名跡志

卷一

補

○太刀賣 南紺屋町をよき今も靴店多し

○四方登姿 原けり南法

○京橋 大通筋之日本橋より八町南

○王木稻荷 吾町より始八登姿の法を 神々 鈴木大隅守

○三年橋 竹町より令六町へ

○鶴林稻荷 水谷町土方寺をよき法をりりじり白

○狐日鳥の扇を奉納せり

○内町 今弓町中通り新着町をよき八日は谷河堰橋

○三橋 八丁堰と水谷町の三方より水谷町の赤をよき法をりり昔

○延宝寺 八丁堰と延宝の乃江戸園より

○八丁堰 八丁堰の内に 神々 出口市正

○伊雑太神宮 八丁堰の内 俗いよ横町より

○分限記 天照皇太神宮別宮也より

○山王御旅所 かわむ町 永田三場山王持

補

○茶師堂

額 醫王堂 長崎 道栄を

かむる恵心僧都の住しや山王の本地より安堂に

△天満宮 菅神親帝の御像を 社家 法井帯刀正持

○地蔵橋 八丁堰より中堰所の入地より

○澄渡 かわむ町より小あむ町二丁目へ

里諺より往古ハハ入江にて大より係れ義経在奥列せり

の州俄風おちて浪をきりりしと澄と志つめ法林は新給や

いひつゝへり又平ねのりつけてはやちるるいひにや

○甲塚 日下牧中家の中より内より小山の上より下へ

ア文はよりりいよ小虫のるよあれを我新法かむるよ

めくろりいよいよ

○冥岸橋 かわむ町より冥岸橋よりいよ東の橋法三十四間や石

垣よりり橋をよき法をりりあむり新舟を船般のかるよ

○築出新地 明和のけりめ築をよき

補

再交江野記

七

○湊橋 其岸より第一橋へは川をわたり

○永代橋 長凡百十間余幅三間一尺五寸 元禄九年にけりてから
其のまは深川の大河にけりては橋すらしりては富土筑
波とけりめ伊豆お根安房上根限りて眺む斜たけりて江府中
一の大橋とけり大橋とて渡船洲まての間敷百の廻船かゝりては
て川幅凡百二十間余あり

○靈巖嶋 雄誓灵巖和尚海行とて築きて禁制と造

灵巖寺と号しつゝ嶋のまはけりては江府中嶋といひ
しとて後お寺に深川へ向ひて寺跡のありて町屋と成十八
町ありて中吉木の町五丁とてのまはけりて松平
紙前守後お中をまはけりてはけりてはけりてはけりてはけりては

○神明宮 其岸嶋のありて 伊勢内宮 慶光院宿寺

伊勢内宮のあまを御説く

○橋本稻荷社 まゝしん嶋 別當殿王山系学院

之州風来寺峯業師回作の業師ありてて医まふといひ

○惠比酒社 其岸嶋のありて けりてはけりてはけりてはけりては

○稻荷社 日而 志ひすおのいりて云

けりてはけりてはけりてはけりてはけりてはけりてはけりては
けりてはけりてはけりてはけりてはけりてはけりてはけりては
の稲をわたりてはけりてはけりてはけりてはけりてはけりては

○一の橋 二の橋 三の橋 新川よかり

○豊海橋 俗し女橋といひ 新海大川のけり

○隨見を登 一の橋お浩茶碗持店といひ 俗茶といひる

え縁のころ川村隨見宅地に居るは諸玉の風土と考川と堀田畑
と因お敷す河内木の水と流るは標泉の堺は川と堀大和川とい
ふ大坂は安治川と堀て淀川の溢るはしとのまをりて川下り
山と築り少く号沖より目あてりて世俗隨見といひは

乃功れ多し名譽世のまをりて 御幕下川村氏の祖なり

○さきわ町 其岸嶋の俗号 船大ユヌー 船具と作古和と解

○龜崎橋 其岸嶋のありて八丁堀といひて元禄の頃始てけり

○高橋 三つ所より八町あり一へ

○稻荷橋 八町堀五丁目一より南橋法は稲荷の社あり

○稻荷社 けつりあり 津之浦赤山

○法 けつりありの頃より南八町堀の産津なり

○澤 けつりあり 石川孝太郎及居中きく俗よる

○前板石川 けつりあり非し六くみ川の新よる

○佃 けつりあり 澤はよるいれもくけつりあり獵師の

○住吉社 法くあり 神主津守日向守

○神代卷 伊弉諾尊往至荒紫日向小戸橋之檉原而祓除焉遂

將温滌身之所行沈濯於海底因以生神号曰底津少童命次

底筒男命中畧 凡有九神矣其底筒男命中筒男命表筒男

命是即住吉大神矣下各 神書鈔住吉之名神功皇后時此神

託后體而循行四方遂到摂州之地宣言曰真住吉之國也因

鎮坐其地名曰住吉下畧 三河男に津功皇后を加へ住吉西所と云

△当社の名も一 以て此漁人にて摂州の若くは住吉

と御住一存津と云

▲佃のほとと安右右京進及中きく及と抄らるる東北の墓の

と今に安右家よりと給れて漁人も亦と云ふと彼家

の抱の獵師なる遺風を信吉を祀らるるなり後のふりや

○ト養を補 決炮洲の所あり一所の裏の

けつりありきおれのと記あり

ト表はなるとしてけつりありにみ地と云ふお神なり

○了然禪居菴室 決炮洲の内

けつり然ハ黄檗宗の比丘尼なり 紫一本曰是ハ 東福門院

とやつへせり女房なり 女院豊御の後尼も成り慈と云

けつり五山の傍と師として禪学とつとめ園東よるなり鉄牛

和尚よ法問ときく人ん志くも容良美とてけつりきた

補

○塗御高札場 芝口橋原より享保五年申けりて江古沖府内は還りて校死の位所を此らとの八男女をいふ年あるを飛鷹中のそのお返り記にぬり板を掛しは所を掛らるるなり

○疾橋 山王町より南へなる 難波橋とも云

○土橋 幸けりの御堀へりともりの本元末とれと汝こめけりしは河までゆき入るるはき魚を賣有店といふ

○八官町 八官と云吳公人は所をやきを下まらるる

○穀豊縮荷 日町地を十を倉の法を 村主宇治川若狭

○日陰町 すまやけより山下沖門の沖堀とも云

○有樂原 すまやけ沖門外廣小浜より元ときわ町二丁目にて目の所かりといふ長長この織田有樂中き下

されは後ゆ地とりりて之四町不一のまきまらるる柳橋楓夏は代田の吹涼と云り葉山のかちらるるなり柳橋楓かちらるるなり秋も又ありあらく人多くあつては折く沖をとりては実水のあらま

補

四 櫻田 永田馬場 赤坂の内 麴町 番町

○櫻田 山下御門幸橋の内より虎御門の外までの慈名

風土記残巻号ハ櫻田者以其郷之田及野櫻樹多也とあれむいハ櫻田の多くわり一に在り在系那のくちとあり今ハ此と櫻田の内

○山下御門 又姫橋 姫沖門とも云 又俗に鶴沖門とも云

○姫井 又櫻井とも云 山下沖門幸橋の間を流るる

は姫井ゆき姫沖門といふといふはきこの中きより一幸に白糸を引けは井の中へ古来よりまき入るるなりその時井のうきとこふたき葉田のまきとてふとそりてさなしてハかちらるる山事ありとそ常ふた後とおろとけり水と及といふなり

○封の井 さくら田の池 西澤なりと

○白糸の滝 松平安流をち坂向中いきより玉川とせ流入る
くりくりにかへりて白糸のつらぬ流と水のうねり
このまじ敷とめてふつけりて

○潮又坂 松平流をち坂と井との内を坂のるの坂といふ
三浦志摩をち坂中いきのあそこの河門の内

○柳の井 松平安流をち坂と松平流をち坂中いきのるの坂
の内園よなきところありて古の奥羽へのけりたりといふ

○霞ヶ園 松平安流をち坂の園をち坂の園と志井といふ
後手載りてくはるるまの園をち坂の園と志井といふ

○名所方角鈔霞園 あよき園あり東向のふりてはるまてえり西より
のけりてはるまてえり西より

○陶山ヶ園 松平安流をち坂の園をち坂の園と志井といふ
のけりてはるまてえり西より

○山王神社 永田馬場より 神領六百石 別當 勸理院僧正
祭神江州日吉同神なり 神社啓蒙曰所祭神七座大宮大己貴

命二宮國常立尊神皇産靈尊聖主真子正哉吾勝尊八王子國
狭槌尊客人伊弉册尊 十禪師瓊々杵尊 三宮檀根尊 右

本宮七社也 所屬十四座加上七座 称二十一社 延喜式十一曰
近江国滋賀郡日吉神社名神七 同三名神祭部云日吉神社

一座注云比叡神同傳記云山王権現者碓城嶋金刺宮欽明即
位元年自天降于大和国碓城上郡而現大三輪神下略其外れ

あれの書にくりて略 當社ハ入間郡川越仙波といふ所
あり上古仙臺仙人の住り古跡ありと云受大師茶剣あり

又流跡坂とも云は坂よりくはるるまてえり西より

○永田馬場 永田氏の所旗をちき今ハ二町あり

○白桜 ころの所より曲坂家の中いきの内より

○星野山 山王持次郎の山といふ

○山王神社 永田馬場より 神領六百石 別當 勸理院僧正
祭神江州日吉同神なり 神社啓蒙曰所祭神七座大宮大己貴

命二宮國常立尊神皇産靈尊聖主真子正哉吾勝尊八王子國
狭槌尊客人伊弉册尊 十禪師瓊々杵尊 三宮檀根尊 右

本宮七社也 所屬十四座加上七座 称二十一社 延喜式十一曰
近江国滋賀郡日吉神社名神七 同三名神祭部云日吉神社

一座注云比叡神同傳記云山王権現者碓城嶋金刺宮欽明即
位元年自天降于大和国碓城上郡而現大三輪神下略其外れ

あれの書にくりて略 當社ハ入間郡川越仙波といふ所
あり上古仙臺仙人の住り古跡ありと云受大師茶剣あり

又流跡坂とも云は坂よりくはるるまてえり西より

○永田馬場 永田氏の所旗をちき今ハ二町あり

○白桜 ころの所より曲坂家の中いきの内より

○星野山 山王持次郎の山といふ

○山王神社 永田馬場より 神領六百石 別當 勸理院僧正
祭神江州日吉同神なり 神社啓蒙曰所祭神七座大宮大己貴

命二宮國常立尊神皇産靈尊聖主真子正哉吾勝尊八王子國
狭槌尊客人伊弉册尊 十禪師瓊々杵尊 三宮檀根尊 右

○玉川滝 松平出羽守及山中さまあり水は玉川の流す
す名ハ溜池へおつる

○新築馬指荷 右田中さまあり

○清水谷 紀州沖やうと井伊家の山中やうさまのまよと云
あうらハ紀州沖やうさまの池にありといふ

○清水坂 尾州沖やうの沖門前の坂也

○柳の井 清水坂の下に井あり

▲糺町八丁目へ出さ坂下まで清水谷ありは坂のまよ申古
於廿ありて吉原へひけるおなりといふ

○柳橋 糺町七丁目の石橋といふ今も小児のねん
まかしの乳とがらうといふ

○増上寺舊地 じう光明寺といひて土橋のまよといふ
とく柳堰まよ今も増上寺持分の四五尺は八九間かと
不そ長きおらり又土橋の向は太板ありはま後も持分
かりといふ谷は倉邊といふ所のまよ

○四谷御門 糺町十丁目ありは外四谷といふ

○常栄山天性院心法寺 浄土 赤坂浄土寺末 糺町十丁目
當寺往古境内にて廣く今の市谷に及ぶ鐘の銘は市

谷庄常栄山といひり △聖徳太子 △園魔 ともは境内に
ありて七月十六日糸指多一寺中 貞松院 寂膳院

○村高山栖岸院 曰 智恩院末 曰八丁目
とハ長福寺といふ二所より江戸へつりてと 基安藤家

△聖観音 糺町御持佛 前立の銘は楠正成胡左の持
分といふ 七月十日糸指多一 △富田縮荷

○石雲山常仙寺 曹洞宗 四谷竜昌寺末 曰九丁目
△菜師堂

○鎮護山善國寺 法花宗 池上末 曰六丁目
△毘沙門天土中より出現異蹟いらる由來あり畧

御廟内は寺院ハ右四ヶ寺の

○鈴振谷 糺町寺谷といふ 糺町六丁目横通をもちあ

丹波国丹波郡 丹波郡 丹波郡 丹波郡

○金子塚 金子十郎家忠の塙古鹿子百糺町御門外越後寺光長にの
やきの内より今ハちれすと記せり ちりハ平河天沐おのもこ

○茶師横町 糺町九丁目常仙寺の先の通々の寺ハ茶師
あつゆへいふ番町の乃多勢と

○願生寺谷 糺町四丁目より五番町の通々中古ち代を
アツ牛心へいけりといふ

○番町 東西十六丁 南北七十八丁 四谷市谷牛込の三御門の間御外廓の内と云
ハ内御旗本衆のやまき二番町より六番町といふり 表
形乃土も何番町といふありてむつりまき町と

一書曰御旗本所番方の武士と御城西の方ハまき町割と賽
の月と用ひりし番町とせりともハまき長の御下知り三四六の
偶目ハ伝りりゆへは裏町と別りしれ奇目ハ陽りりゆへはの町一
町づつしと云 又曰今のまき山後天徳寺の西城山といふ町より
西の方上ま田一と田といふ地まで牛込忠長を祖とせり三
千石の場なりといふ

○地獄谷 糺町三十目のうら二番町へゆく谷といふと

○底まつらば 二番町の末葉系家の中まねありといふ
井のあつて水なりその深きまはりかきまき水や
きのまきまきといふ中へすつれとも今もまきまき埋らぬといふ

○行人汲 前板よりその前詳なりといふ

○三念寺坂 前板三本坂といふり
六人町より市谷御門内へ出る南の方の坂中古三念寺と
いひち代はけ寺ハ郷元町へつりまき 俗傳て三本坂といふは
坂よりあるもの必三本のうちハ死しといひまきハせり
系東山清水寺遠くも三本坂といふありこれハ子安観音あ
まきと産寧坂といふまきと得るといふことともありま
このハ三本のうち死といふその説お似たりといふまき教ハ
ありといふ泉俗の説よりまきといふ

○花屋敷 三番町杉田家のやまきといふと 四時より花
さく草の本まきといふまきのまきといふといふまきといふ

○血倉後 牛込御門の内むしり物波まき下まきと四一枚と井と

補

丹波国丹波郡 丹波郡 丹波郡 丹波郡

四七

丹波国丹波郡

補

為すその科よりて殺害せしむぬ悲を忘りの井よとまり
毎夜その女の声よて一より九つまでとがど八十といひて泣きけり声
何りてかこりて一より九つまでとがど八十といひて泣きけり声
は祠あり俗にこれと血ぬ神といひてその女の冥をねふといひ六非こ

補

○筑土社舊地 牛込河門の少東に米倉ありきのおよ大榎
一もとありこれつくとどの神本といひつゝよお板赤城社の趾と
りりハ誤り赤城の法ハ牛込河門の赤城の田の中より

補

○田安稻荷 牛込河門の例より 筑土別當 成就院持
▲番町ハ小路多くや一に長く尋ねるべき也表裏何番町といハ
いへと必その表裏隣りともありて心は寺にあり境内は廣く
影々地とよしお後や一きくよ下なりといひて麴町八丁目より
十丁目六番町まで清水坂喰ちるひのをよ 御入園以来火災あり
井修家中や一きよ世よ千疊敷といふものあり加友清心の建ら
ましまたたりは清心の表つよハ合をて虎と彫るゝといふといひ心は
寺といひて池のたつとつよハ時の化なり

一之巻軸

